自立・自己実現
①生活習慣と規則を守る力
②仲間とともに高まる力
③自ら学び、考え、判断する力

学校だより DREAM

茨木市立西中学校
1月　№9
発行責任　田中義明

「あけましておめでとうございます」！

始業式 講話より

みなさん、明けましておめでとうございます。良い新年を迎えることができましたか。

大晦日に除夜の鐘を聴いたでしょうか。

「除夜」というのは、大晦日の夜の事。一年の最後の日に、古いことを除き去り、新年を迎えるために、「除夜の鐘」を鳴らします。

鐘を打つ数は、108回です。なぜその回数か、理由は諸説ありますが、仏教の世界では人には108の煩悩があると考えられてきました。煩悩とは人の心を惑わせたり、悩ませたりする心の働き（心の乱れ、汚れ）をいいます。108回鐘を鳴らすことで、煩悩を祓うことができると考えられてきました。（例えば　「四苦（４×９）」「八苦（８×９）」を足すと108など）

本来は、厳しい修行を積んだ人が、煩悩を払うことによって、悟りを開くことができるという意味があるのですが、私たちのように修行を積んでいなくても、心の乱れや汚れを祓う力があると信じられているため、今でも続いているのです。

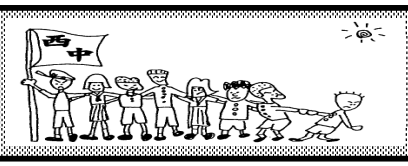
みなさんの生活に置き換えてみると、４月に「良くなりたい気持ち」や「良くなる力」を持って1年をスタートしたと思います。しかし、１学期・２学期の間に、少しずつ緩んでしまい、サボりたい気持ちが出たり、仲間のことよりも自分のことが優先になってしまった。これがまさに煩悩の仕業です。自分の煩悩に悩んでいる人も、着実に歩みを進めてきた人も、大晦日に煩悩を祓い、新年の初めに、リセットし、もう一度自分を見つめ、仲間とつながりを振り返り、「良くなりたい自分」を前に押し出してスタートできる。そんな力が除夜の鐘にはあるというんです。

また、正月の「正」という漢字には、「あらたまる、きちんと」という意味があります。「正月」とは「あらたまることができる月」です。古来より、日本人はそうやって年の初めを節目とし、自らを振り返りながら次のステップを見つめ歩んできたんです。

３学期は、１年の締めくくりの学期です。そしてさらに良くなるチャンスがあるということです。３年生は受験に向け、自分の力を発揮できるよう、２年生は学校の中心として学校を引っ張る責任と立場を自覚し、１年生は入学してくる後輩に1年生の力を見せられるよう、今まで、積み重ねてきた力をいかしてほしいと思います。その力はついているはずです。

そして、人間として大切なこと、たとえば、仲間を大切にするとか、物を大事にするとか、時間を大切にするとか、そんなことが自然に身につき、あたりまえにできる。みんなの良くなりたい気持ちを大切にできるようになってほしいと願っています。

J4・J3が当たり前！



12月の最後、各学年の学年集会で、2学期には「行事などを通じてクラスの団結力が高まり、仲が良くなった」半面、「チャイム着席やJ4などに課題がみられた」という報告がありました。

これが、どの学年でも、3学期をスタートするにあたっての課題です。

3年生は進路選択の時期

自分だけが進路について悩んでいたり、焦りを感じていると思っていたら、みんなも同じように、もしくは自分以上に悩んでいる人がいるということがわかった。自分も共感する部分が一人の発表の中に必ず一つはあった。自分だけが苦しんでいるわけじゃない。まわりのみんなも同じように苦しんでいる。それがわかって少し心が軽くなった。

毎日何時間も勉強している人、1時間からでも始めようと頑張っている人、いろいろだけれど、誰もが受験生という自覚を持って努力しようとしていることを知った。今は「どこの高校へ行こうか迷う」「どこに行けばいいかわからない」など、悩みはたくさんあるけど、その悩みから逃げることなく、真剣に向き合っていきたい。

（3年生の学級通信より）

進路選択をすることは、誰にとってもしんどいこと。進路懇談の時期、12月の終わりに3年生はクラスミーティングをしました。

進路に向けては、早い時期からコツコツと積み上げ、力のついた人もいれば、今まで「やらなければ」と思ってきたけれど思うようにいかず進路先の変更をよぎなくされる人もいます。それが、これからみなさんが直面する現実です。

「なんでこんなにしんどい思いをしなければいけないのか。」「勉強のできる人がうらやましいな。」「自分だけがしんどい思いをしているんやないか。」

自分では頑張っているつもりでも、となりの芝生が青く見えて（他人のことがよく見えるということ）、そんな自分自身がとてもいやになる人もいるかもしれません。頼れるのは自分だけ。まわりの人がうらやましくてしょうがない。

今回のミーティングで皆さんが学んだことは、「進路選択への悩みも焦りも自分だけのものではない」ということを共有できたことだと思います。

これまで3年間「班」＝「家（居場所」を目指してきたことが本当にいかされる時がきました。しんどいことから逃げるのではなく、みんなで支えながら乗り越えていく集団になってください。

「西中校区の集い」